

## 実践4 保護者授業参観とティアアップする実践

## 西鱈田小学校の取組



## 三条市立西鱈田小学校

- ・三条市中心部を流れる五十嵐川の南側に位置する
- ・全校児童281名  
(家庭数181)
- ・全10学級(特支2学)
- ・平成16年7月新潟・福島豪雨では**一部家庭で床上浸水**



1

平成26年度

三条市指定防災教育研修会モデル実践校  
【洪水災害編】

テーマ

保護者と子どもと一緒に学ぶこと

保護者参観日に  
公開授業を設定

2

課題

- ・保護者に呼び掛け関心を高めること
- ・保護者の水害の実体験を学習に生かすこと

保護者が集まる機会・たより等での呼び掛け

- ・PTA総会・役員会等・学年たより等で期日、内容ねらいを何度も働き掛ける

H16. 7. 13 H23. 7. 29水害の体験の共有

- ・防災壁新聞コンクール応募をきっかけに、児童が保護者への取材活動を行う

3

## 保護者参観の実際

1年生	学習のねらい ~大雨が降った時の危険性を知る~ ○大雨が降った時の状況を考える。 ○大雨が降った時の身を守るための行動を知る。
2年生	学習のねらい ~大雨が降った時の身を守る行動を知る~ ○大雨で洪水が発生した時の危険性を知る。 ○大雨が降った時の避難方法について理解を深める。
3年生	学習のねらい ~雨の降り方や洪水について知る~ ○雨が降る季節と洪水が起きる理由を知る。 ○大雨の時、洪水の他に起こる現象を知る。
4年生	学習のねらい ~洪水から街を守る対策について知る~ ○洪水から街を守るための対策(堤防やダム等)を知る。 ○洪水ハザードマップを用いて避難先を調べる。
5年生	学習のねらい ~洪水に対する日頃からの備えを知る~ ○洪水ハザードマップの意味と使い方を知る。 ○日頃から備えておくべきことを考える。
6年生	学習のねらい ~川からの恵みと災いについて考える~ ○新潟県内の過去の洪水災害を知る。 ○川の恵みについて考え、自然と共存することを学ぶ。

4

1年生

大雨が降ったときの危険性を知る



大雨の映像(雨の降り方による音の違いを聞かせる)

大きな雨音に耳をふさぐ子どもたち



2年生

大雨が降った時の身を守る行動を知る



H16新潟・福島豪雨の三条市の被害の様子を写真で確認

3年生

雨の降り方や洪水について知る



<資料>  
7月9日  
豪雨で休校になった際の児童の絵

三条市の雨量を棒グラフで確認



7

4年生

洪水から街を守る対策について知る



親子で逃げどきマップを調べ、自宅からの避難先を確認

学年だよりで親子で活動する時間帯を知らせ、その時間に教室にいらしてもらう



5年生

洪水に対する日頃からの備えを知る



各家庭に配布されている『豪雨災害対応ガイドブック』で学習



家庭から借りた非常持ち出し袋の中味を確認





### 6年生 川からの恵みと災いについて考える



防災教育プログラム開始2年目のため、6年生には積み重ねがない。2時間扱いの単元を組み、前時に5年生までの学習内容を学ぶ。

川の恵みについて考える  
(姿勢の防災教育)



### 特別支援 防災カルタ



### 講演会 「防災教育の可能性」



群馬大学 片田敏孝 教授  
「防災教育の可能性」  
～生きる主体的姿勢を育み、  
文化を築く防災教育～



「涙が出てきた」  
「大変ためになった」  
という声が多かった。

### 保護者の声

- ・水害について一緒に学ばせてもらいよかった。
- ・子どもがどんなことを学んでいるのかを知るよい機会となった。
- ・子どもと避難場所を確かめる機会をもててよかった。
- ・自分で考えて行動できる子どもを育てるのはよいことだと思った。

防災について保護者も  
学ぶ機会となる

### 防災教育を保護者参観で行うよさ

家庭との共通認識ができる

→自分の命は自分で守るという共通の姿勢

防災教育について全校体制が確立される

→やらなければいけないという意識

教材研究が充実し、自校化が進む

→人に見せるという意識がよい授業をつくる

### 今後の課題

防災教育での授業参観が継続できるか

→学校の年間予定でどう調整するか

家庭で授業をどう話題にしてもらうか

→今回は保護者に委ねている

自校化した記録をどう保存し積み重ねるか

→職員が替わっても指導を継続する

### 三条市の防災教育

平成16年新潟・福島豪雨(7.13水害)

災害に強いまちづくり  
を目指す

防災教育

まちづくりにつながる教育  
地域を愛する心を育てる教育